

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500246
法人名	有限会社 ほほえみ
事業所名	グループホーム微笑の家なかむら
所在地	愛媛県新居浜市中村二丁目4番25号
自己評価作成日	平成24年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 5 月 30 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症介護における自立支援の中で、日常生活の中の「衣・食・住」においては、やはり「食」が中心だと考えている。食事作りや下準備・後片付けなども「利用者とともに」を念頭に置いて日々の支援を行っている。認知症といっても、本当に美味しい食べ物は最後まで分かるので、食事作りにも力を入れている。また、ホーム内では家族的な雰囲気の中で、利用者に対するグループレクリエーションと個別レクリエーションをバランス良く提供したり、館外への散歩や外出等も活発に実践していきたいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から1年が経過した平屋建ての事業所で、玄関を入ると左右にユニットが分かれており、ユニット間を自由に行き来ができ開放感がある居間は、明るく広い空間づくりがなされ、利用者の居室が見渡せて、見守ることができる。散歩時には地域の方と挨拶を交わしたり、ボランティアの訪問も受け入れており、利用者の穏やかな表情から、管理者や職員が理念に基づき地域の中で日々の暮らしを支えていることが伺える。食事は利用者の楽しみのひとつであり、一人ひとりの状態に合わせて調理方法を工夫しているため、ほとんどの利用者が完食している。利用者の希望に応じた外出支援にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**  
  
**ーサービス向上への3ステップー**

<b>事業所名</b>	グループホーム微笑の家なかむら
<b>(ユニット名)</b>	ちとせ
<b>記入者(管理者)</b>	
<b>氏名</b>	中 嶋 剛
<b>評価完了日</b>	平成 24 年 5 月 7 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 管理者や職員が常に理念に沿った介護と支援を目指し、いつも確認を行いながら実践している。	
			(外部評価) 開設時に管理者が提案して理念をつくり、職員は日頃から話し合いを行って理解を深めている。管理者と職員は理念を共有して、利用者一人ひとりに合った支援を心がけて、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 事業所周辺を利用者と共に散歩しながら、地域の人たちと挨拶を交わしたり時にはお話をしたりして溶け込み交流を持つようにしている	
			(外部評価) 近所を散歩する時には、地域の方と挨拶を交わし話している。マンドリンや三味線、歌のボランティアの方が訪問しており、秋祭りには太鼓台が来ている。近隣の新興住宅地の方との交流についても検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 開設して1年が経過し、ホームがようやく体をなしてきて、地域の人々にこれから生かしていきたいと思っている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議での議事録を職員に回覧してないので、全職員に取り組みが十分浸透してなく、今後は情報を開示して活かしていきたい</p> <p>(外部評価) 利用者や家族、地域住民、自治会長、市の介護福祉課の職員、市議会議員等の参加を得て2か月に1回開催している。内容としては利用者の状況や事業所内の近況報告、意見交換が行われている。</p>	<p>開設して1年目であり、これから地域との交流を深めていくためにも、参加している地域の方からの意見を活かし、また地域の情報を得て、今後のサービスの向上につなげていくことに期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 地域密着型部会での市の担当者との情報交換や窓口担当者とも連絡相談を行うなどして、協力関係を築くよう努力している</p> <p>(外部評価) 運営推進会議に市の職員が参加しており、助言をもらっている。また日頃から相談したり、介護認定調査時や事故報告等で連携がとれている。介護相談員の訪問も受けて協力関係が築けている。</p>	<p>開設して1年目であり、これから地域との交流を深めていくためにも、参加している地域の方からの意見を活かし、また地域の情報を得て、今後のサービスの向上につなげていくことに期待したい。</p>
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 日中は玄関の施錠はせず、なるべく開放的な雰囲気作りに努めている。また、身体拘束をしておらず、常に職員間で話し合い確認をしてケアしている</p> <p>(外部評価) マニュアルはまだ作っていないが、職員は身体拘束について研修会等に参加し、よく理解して取り組んでいる。玄関は鍵をかけないで、出かけようとする利用者に対しては職員が必ず付き添うなど、職員が利用者一人ひとりを見守っている。</p>	<p>今後も勉強会を継続して行い、職員間で認識を共有するためにもマニュアルを作成し、身体拘束をしないケアに事業所全体で取り組むことに期待したい。</p>

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 身体だけでなく、言葉使いでも虐待になる場合があるので、常に気をつけるようにしている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制についての説明は職員にしており、必要な場合は積極的に活用できるようにしている	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者より、利用者及び家族には丁寧な説明を行い、不安の除去に努めている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者・家族の発言に対しては、真摯に話を受け止めて運営等の改善に活かすよう努めている  (外部評価) 県外在住の家族の方も3か月に1回は訪問があり、職員は訪問時にそれぞれの家族から要望や意見等を聞いて、運営に活かしている。また利用者の状況を知らせる3か月に1回のホームだよりや、家族会による敬老会やクリスマス会なども、意見を聞く機会にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 常に職員の声を聞く体制はできている。意見の内容によってはすぐに検討を始めることもある	
			(外部評価) 人事異動も少なく、職員は管理者に対して意見が言いやすい関係ができている。またユニット会等で出た職員の提案や意見は、リーダーを通じて管理者に伝えられ、内容の検討、話し合いも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務状況等は把握できている。また職員からの疑問点については、代表者に確認を取って、理解できるように説明している	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部の研修会等への参加は、積極的に職員にすすめており、また参加もしている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 開設して1年が経過し、管理者だけの交流でなく、職員も地域密着型施設間の相互研修などの参加で交流を図っていきたい	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者が中心的に聞き取りを行っているが、不十分な時は職員からも情報を聞き取り随時話し合いながら、スムーズな運営を心掛けている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族が来館された時、明るく挨拶することでいろいろ話しかけてくれる環境作りを全員心掛けており、家族からも気軽に相談できるように努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 管理者の初期段階での事前聞き取りと、職員のケアの実践とが対応できているか検討しながら最良のケアの提供に努めている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 常に職員は利用者の立場で物事を見たり考えたりして、利用者が自主的に行動出来るように支援する努力をしている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族関係を尊重しながら連絡を密にとって、ときには家族の力も借りながら日常支援を行っている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) これまでの近所の方や親戚の方、友人ら気軽に自由に来訪出来るし、いつでも来館してくれるよう声かけをしている  (外部評価) 利用者の希望に合わせて、馴染みの場所へのドライブや買い物、外食等を職員が支援している。利用者によっては家族と一緒に自宅に帰ったり、馴染みの場所に外出する場合もある。これまでの関係を継続できるよう、個別の支援に努めることを職員間で話し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の会話の中から関係性を把握し、リビングでのレクリエーションや居場所を何時も考慮に入れて職員からの声かけや話題の提供を行っている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 管理者が、退去されても時には家族等に連絡を取って関係の継続に努めている	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎月のユニット会等で利用者が今何を求めているか話し合い、出来る限り意向に沿うようなサービスの提供に努めている  (外部評価) 職員は、利用者から直接希望を聞いたり、その日の表情や態度等から思いを把握するよう取り組んでいる。職員の得た情報は記録に残し、会議等で話し合いを行い、共有して支援に活かしている。また、介護計画にも反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の聞き取り調査の時点で情報提供がなされており、入居後も職員がいろいろ聞き取り情報の補充を行っている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 観察心を持って関わる様に努め一辺倒な対応ではなく、その日その人その現状に合った介護方法をとっている、	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ユニット会やケア会議で、利用者の担当者や職員が意見を出し合い、全員の共有として課題の抽出を行い、介護計画を作成しており、ケース会議も必要に応じて随時行っている  (外部評価) 利用者や家族の希望や担当職員の意見を採り入れて介護計画を作成している。介護計画は、家族の訪問時に直接説明している。計画に沿って実施したケアは記録に残しモニタリングも行っている。3か月に1回は評価し見直しを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケア記録は的確に記載されており、全員が必ず見ることによって情報の共有ができています。また気づきノートも活用しながら確実に申し送りや介護の見直しに役立っている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人のその時のニーズに対応すべく出来る限り柔軟に接している	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 外出や外食、戸外でのレクリエーションを通じて地域資源を出来るだけ活用できるように努めている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 毎月定期的にかかりつけ医への受診や診察を設けてお り、緊急時にも往診してもらうなどして、常に適切な医 療を提供している。また、家族等の要望も踏まえ専門 医への受診も支援している	
			(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医を受診できるよ う支援している。専門医の受診は家族にお願いしてい るが、家族が行けない場合は職員が対応している。協 力医療機関の医師が月1回往診している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日頃の状況を細かく看護師に報告相談をして、随時適 切な受診や医療が受けられるようにしている	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 管理者と看護師が常に協議して適切な対応をしてい る。また病院とも常に連携を考えて関係の構築を図っ ている	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した時の対応の仕方を常日頃、適宜家族として おり、時には主治医も交えて意見や交換情報の行っ ている	
			(外部評価) 看取りの指針等は作成していないが、利用者の状況に 応じて、その都度かかりつけ医や家族等と相談し対応 している。夜間の緊急時は事業所の看護師に連絡し て、状況に応じた対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルに沿っての連絡はできており、急変時の対応や実践力も少しずつ向上してきている	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアル化されており、定期的に避難訓練等を実施している	
			(外部評価) 災害対策マニュアルを作り、消防署の協力を得て昨年は1回避難訓練を行い、今年は2回行う予定としている。消防署が近くにあり、身近に相談できる関係を築いている。近隣の協力体制については、これからの課題となっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 自室での生活を尊重した最低限の訪室と声かけをいつも念頭に置いており、言葉のかけ方にも注意を払っている	
			(外部評価) 利用者の居室に入る場合は、必ずノックし声かけも行っている。日常の生活の中でも、利用者一人ひとりに応じた声かけを心がけ、個人的な話をする時はそれぞれの居室で聞く等プライバシーに配慮している。申し送り時にも、利用者に聞こえないよう注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者本人が希望を気軽に言える雰囲気と環境作りをしており、あくまで自主性を尊重し自己蹴ってしやすいように努めている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日の本人の体調（身体的・精神的）に合わせて出来る限り希望に沿った対応を心掛けている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) まずは本人の意向を尊重して自分で決めてもらう様になっている。また、人によってはサポートする場合もある	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の持っている能力を引き出せるように一緒に食事作りや準備をしたり、後片付けにも協力してもらっている。またメニューも偏らないように楽しく食事ができるよう工夫している	
			(外部評価) 利用者ごとに持てる力を活かして、職員と一緒に料理の下ごしらえや後片付け等を行っている。食事は利用者の楽しみのひとつであり、職員と一緒に食事を楽しみながら完食される方も多い。ユニットごとに献立があり、利用者の状況に応じたミキサー食や刻み食、また日曜日にはおやつ作りもあり、工夫しながら支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量や水分量を的確に記録して、定期的な体重チェックなども行い、体調管理や健康維持に努めている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアの声かけを行い、本人の出来ない部分は一部介助している	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表で個人個人のパターンを把握しており、個々人に応じた排泄方法で声かけや見守りまた介助を行っている	
			(外部評価) 利用者のトイレに行く回数や、お腹の張り具合等から一人ひとりの排泄パターンを把握し支援している。自分でトイレに行ける利用者也職員が必ず見守りをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便パターンを把握して、野菜や水分摂取また運動への声かけ等で便秘予防を図っている	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々人の入浴日が一応設定されており、残念ながら自由な入浴の実践は出来ていない。外出や受診等によっては柔軟に入浴日の変更をして対応している	
			(外部評価) 入浴日は決めているが、利用者の状態や状況に応じてその都度変更しており、週3回は入浴できるよう支援している。入浴が苦手な利用者も無理強いをしないで声をかける職員を変えたり、時間を変えたりする等工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 特に就寝時間は決めていないが、利用者の習慣にある程度任せている。夜間安眠できるように照明を落としたり、職員の定期巡回も妨げとならないよう足音にも配慮している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の服薬確認一覧表と薬の説明書を常備しており、常に閲覧確認しながら服薬支援ができている。また症状の変化には注意深く対処できている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ホームにおける役割感を大事にして生き活きと過ごせるように、また気分転換の場面作りなどにも心掛けている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個々人の外出には家族の応援も受けながら対応している。またユニットとしての全員での外出や外食なども計画をして生活に潤いを持たすように工夫している	
			(外部評価) 近隣の散歩や買い物、散髪、ドライブ、外食等利用者の希望に応じて個別に対応している。季節に合わせて、花見、紅葉狩り等ユニット毎に計画して外出支援している。家族と一緒に出かける利用者もいる。年間行事についても工夫した内容を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人に少額だが自分でお金を所持し管理している方と、お小遣いとして事務所預かりの方がいるが、自由に使えるようにはしている	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の携帯電話を所持している方もいる。また、会話においては職員が代弁などの便宜も図っている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 一階平屋建てであり、両ユニットを使用することにより広くて明るく自由な共用の空間が提供できている。また玄関や洗面所には花なども飾って生活感を創出している	
			(外部評価) 玄関を入ると共用空間にテーブルと椅子が設置されている。ユニットが左右に分かれて配置され、その入り口は開放されているので、自由に行き来ができる。居間は明るく広い空間が確保されており、利用者全員の居室に目が行き届くようになっている。畳のスペースもあり、ゆったりくつろげる空間づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングはゆったりと広くなっており、ソファや和室もあるので、気の合った利用者同士で談笑できるようになっている	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた馴染みのタンス等を持ち込んでもらったり、人によってはテレビを置いて生活感のある自分の部屋らしくして、本人の暮らしやすい居室作りをしている	
			(外部評価) 利用者が使い慣れた家具やテレビ、好みの小物を持ち込み、過ごしやすように設置している。掃除も行き届いて清潔感があり、広い収納スペースのため部屋全体がすっきりした落ち着いた雰囲気となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 自室の表札が少し高すぎるきらいはあるが、手すりの設置やトイレの表示等で自立した生活が送れるようになっており、各居室も見守りできやすいように一列に配置されている	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500246
法人名	有限会社 ほほえみ
事業所名	グループホーム微笑の家なかむら
所在地	愛媛県新居浜市中村二丁目4番25号
自己評価作成日	平成24年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年5月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症介護における自立支援の中で、日常生活の中の「衣・食・住」においては、やはり「食」が中心だと考えている。食事作りや下準備・後片付けなども「利用者とともに」を念頭に置いて日々の支援を行っている。認知症といっても、本当に美味しい食べ物は最後まで分かるので、食事作りにも力を入れている。また、ホーム内では家族的な雰囲気の中で、利用者に対するグループレクリエーションと個別レクリエーションをバランス良く提供したり、館外への散歩や外出等も活発に実践していきたいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から1年が経過した平屋建ての事業所で、玄関を入ると左右にユニットが分かれており、ユニット間を自由に行き来ができ開放感がある居間は、明るく広い空間づくりがなされ、利用者の居室が見渡せて、見守ることができる。散歩時には地域の方と挨拶を交わしたり、ボランティアの訪問も受け入れており、利用者の穏やかな表情から、管理者や職員が理念に基づき地域の中で日々の暮らしを支えていることが伺える。食事は利用者の楽しみのひとつであり、一人ひとりの状態に合わせて調理方法を工夫しているため、ほとんどの利用者が完食している。利用者の希望に応じた外出支援にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム微笑の家なかむら

(ユニット名) のぞみ

記入者(管理者)

氏名 中 嶋 剛

評価完了日 平成 24 年 5 月 8 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念に沿った介護と支援を目指し、常に管理者や職員全員で話し合っている	
			(外部評価) 開設時に管理者が提案して理念をつくり、職員は日頃から話し合いを行って理解を深めている。管理者と職員は理念を共有して、利用者一人ひとりに合った支援を心がけて、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域に溶け込むきっかけとして、ホームの周辺の散歩での挨拶や会話、また利用者自身の買い物などを利用して交流を図っている	
			(外部評価) 近所を散歩する時には、地域の方と挨拶を交わし話している。マンドリンや三味線、歌のボランティアの方が訪問しており、秋祭りには太鼓台が来ている。近隣の新興住宅地の方との交流についても検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 開設1年でようやくスタートラインに立ったような様子であり、今後は地域の方々にも繋げていきたいとおもっている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議の内容が議事録等で十分に開示されていないので、全職員に浸透していない。今後は情報を開示してサービス向上につなげたい	
			(外部評価) 利用者や家族、地域住民、自治会長、市の介護福祉課の職員、市議会議員等の参加を得て2か月に1回開催している。内容としては利用者の状況や事業所内の近況報告、意見交換が行われている。	開設して1年目であり、これから地域との交流を深めていくためにも、参加している地域の方からの意見を活かし、また地域の情報を得て、今後のサービスの向上につなげていくことに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市役所の担当者等とは連絡や相談をするなどして、連携を図る努力はしている	
			(外部評価) 運営推進会議に市の職員が参加しており、助言をもらっている。また日頃から相談したり、介護認定調査時や事故報告等で連携がとれている。介護相談員の訪問も受けて協力関係が築けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 常に身体拘束について職員間で確認しながら介護をしており、身体拘束のないケアに取り組んでいる	
			(外部評価) マニュアルはまだ作っていないが、職員は身体拘束について研修会等に参加し、よく理解して取り組んでいる。玄関は鍵をかけないで、出かけようとする利用者に対しては職員が必ず付き添うなど、職員が利用者一人ひとりを見守っている。	今後も勉強会を継続して行い、職員間で認識を共有するためにもマニュアルを作成し、身体拘束をしないケアに事業所全体で取り組むことに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 身体に限らず言語にまで虐待がないよう日頃から注意をして介護に努めている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員には成年後見制の説明はしており、実際にこの制度を使われている方もいる	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者を中心に、丁寧な説明を行うようして、不安の除去に努めている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者・家族の発言に対しは真摯に耳を傾け、運営等の改善に活かすよう努めている  (外部評価) 県外在住の家族の方も3か月に1回は訪問があり、職員は訪問時にそれぞれの家族から要望や意見等を聞いて、運営に活かしている。また利用者の状況を知らせる3か月に1回のホームだよりや、家族会による敬老会やクリスマス会なども、意見を聞く機会にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 常に職員の意見を聞く準備は整えている。また、建設的な意見であればすぐに検討している	
			(外部評価) 人事異動も少なく、職員は管理者に対して意見が言いやすい関係ができています。またユニット会等で出た職員の提案や意見は、リーダーを通じて管理者に伝えられ、内容の検討、話し合いも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 不明瞭な点（説明したが理解されていない・忘れているなど）の質問があれば、経営者に確認を取り理解を求めている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部の研修会等への参加は積極的に行っている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 開設1年でホームの職員の力量なども分かり、今後はグループホームの相互研修への参加などが今後の課題でもある	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者中心に聞き取りを行っているが、不十分な場合は、職員も交え適宜話し合う時間を設け、円滑な運営に努めている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族から気軽に相談ができるような環境作りに努めているが、まだまだ十分とは言えない	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 管理者の事前聞き取りと、ケア職員の実践とが合致しているか検討して最良のケアを提供している	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の生活の場を常に念頭に置き、利用者が進んで行動できるように支援に努めている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の関係をいつも尊重しながら、連絡を密にしている本人を支える関係の構築に努力している	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人・親族等がいつでも自由に来訪できる環境作りをしており、随時訪ねてきてくれるよう声かけもしている  (外部評価) 利用者の希望に合わせて、馴染みの場所へのドライブや買い物、外食等を職員が支援している。利用者によっては家族と一緒に自宅に帰ったり、馴染みの場所に外出する場合もある。これまでの関係を継続できるよう、個別の支援に努めることを職員間で話し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションや散歩等の呼びかけは利用者同士で行っている。場合によっては職員が話題の提供など関わることもある。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 管理者が中心に対応しているが、時には職員が関わることもある	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) その人の言葉を大切に、本人が今何を求めているのか職員間での話し合い等を通じて把握に努めている	
			(外部評価) 職員は、利用者から直接希望を聞いたり、その日の表情や態度等から思いを把握するよう取り組んでいる。職員の得た情報は記録に残し、会議等で話し合いを行い、共有して支援に活かしている。また、介護計画にも反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 聞き取り調査の時点で情報提供なされているが、不十分な場合は入居後にも情報の把握をするようにしている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース会議などは必要に応じて定期的や随時開催し、申し送りは徹底的に行って状態像の把握をしている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的なケア会議において職員の意見を集約して介護計画を作成している。また利用者の急激な変化にも即応し、介護計画の見直し等も適時行っている  (外部評価) 利用者や家族の希望や担当職員の意見を採り入れて介護計画を作成している。介護計画は、家族の訪問時に直接説明している。計画に沿って実施したケアは記録に残しモニタリングも行っている。3か月に1回は評価し見直しを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個々人の記録は確実に記入されており、常に公開され職員間の情報の共有は図れている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) サービスの多機能化は意識はしているが、まだ十分には計れていない	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 外出やレクリエーション等を通じて取り入れるなど、出きうる限りで対応している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人や家族の意向も反映させながら、定期受診や緊急 時の受診などの医療も受けられるような体制が整って いる	
			(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医を受診できるよ う支援している。専門医の受診は家族にお願いしてい るが、家族が行けない場合は職員が対応している。協 力医療機関の医師が月1回往診している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 各ユニット1名ずつ配置されており、職員からの情報 を通じても随時適切な医療が受けられるようになって いる	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 管理者と看護職を中心に対応しており、医療機関とも 常に連携できるように努めている	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合については、かかりつけ医同席で本 人・家族に説明する場合や、あらかじめホーム側と十 分に協議する場合もある	
			(外部評価) 看取りの指針等は作成していないが、利用者の状況に 応じて、その都度かかりつけ医や家族等と相談し対応 している。夜間の緊急時は事業所の看護師に連絡し て、状況に応じた対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ホーム内での勉強会で少しずつ知識をつけてきており、マニュアルは理解できている	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアル化されており、今後は地域との協力体制作りも必要である  (外部評価) 災害対策マニュアルを作り、消防署の協力を得て昨年は1回避難訓練を行い、今年は2回行う予定としている。消防署が近くにあり、身近に相談できる関係を築いている。近隣の協力体制については、これからの課題となっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 自室での生活にも重きを置き、自主性を大切にしてプライバシーの確保もできている  (外部評価) 利用者の居室に入る場合は、必ずノックし声かけも行っている。日常の生活の中でも、利用者一人ひとりに応じた声かけを心がけ、個人的な話をする時はそれぞれの居室で聞く等プライバシーに配慮している。申し送り時にも、利用者に聞こえないよう注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者がいつでも気軽に希望等が言えるような雰囲気作りに努め、自己決定できるように随時相談に乗っている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員からの押し付け等にならないように、可能な限り希望に沿った対応に努めている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) まず本人の意向を大事にしその人に合った支援ができている	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員と利用者が食事の準備や後片付けなどを一緒にすることで、同じ時間を共有することで楽しく行なっている	
			(外部評価) 利用者ごとに持てる力を活かして、職員と一緒に料理の下ごしらえや後片付け等を行っている。食事は利用者の楽しみのひとつであり、職員と一緒に食事を楽しみながら完食される方も多い。ユニットごとに献立があり、利用者の状況に応じたミキサー食や刻み食、また日曜日にはおやつ作りもあり、工夫しながら支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分や食事の摂取量を日々記録し、体調の変化の原因になっていないか注意して健康管理に努めている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 個々人のできるところは本人にしてもらい、本人の出来ない部分やできにくい部分に手を施している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個人個人の排泄パターンが把握されている上で、排泄ケアはそれぞれ本人に応じた方法で自立支援に立って展開されている	
			(外部評価) 利用者のトイレに行く回数や、お腹の張り具合等から一人ひとりの排泄パターンを把握し支援している。自分でトイレに行ける利用者也職員が必ず見守りをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 野菜の摂取や運動、また水分補給などにより便秘予防を図っている	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 1週間における入浴者のグループ化・順番など利用者の中で決まっておき、曜日や時間帯を要望によって決めている。外出等の都合は聞きいれ自己決定で入浴している	
			(外部評価) 入浴日は決めているが、利用者の状態や状況に応じてその都度変更しており、週3回は入浴できるよう支援している。入浴が苦手な利用者も無理強いをしないで声をかける職員を変えたり、時間を変えたりする等工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間居室内消灯せず就寝する人、豆球も消す人、個々の就寝スタイルに合わせて照明をリビングも含めて調節をして安眠の支援をしている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬局等で同封されるお薬表は1冊のファイルにとじられ、職員がいつでも閲覧でき把握できるようにしており、確実な服薬を行っている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々人の役割支援はある程度できているが、嗜好調査が不十分な人もある	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族やヘルパー同行により外出できている。特に日曜日は嗜好品の買い物に行けるよう利用者には伝えている	
			(外部評価) 近隣の散歩や買い物、散髪、ドライブ、外食等利用者の希望に応じて個別に対応している。季節に合わせて、花見、紅葉狩り等ユニット毎に計画して外出支援している。家族と一緒に出かける利用者もいる。年間行事についても工夫した内容を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 管理できる範囲と必要な範囲内の金額程度は利用者本人で管理しているが、事務所で管理している人もいる	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の中には携帯電話を持ち込んでいる人もいるが、職員が代弁し会話を進めている場合もある	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用空間は広々と自由に使用できるようになっており、2ユニット1階平屋縦のため使いやすくなっている	
			(外部評価) 玄関を入ると共用空間にテーブルと椅子が設置されている。ユニットが左右に分かれて配置され、その入り口は開放されているので、自由に行き来ができる。居間は明るく広い空間が確保されており、利用者全員の居室に目が行き届くようになっている。畳のスペースもあり、ゆったりくつろげる空間づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室やソファもあり炉用者同士で談笑ができている。また、リビング（食事をとる）での席が固定されているので、一人の居場所は作りやすい	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅等で使い慣れたものを居室に持ち込むなどして、人によってはお仏壇も置くなど、その人に会ったお部屋作りをして暮らしやすさを演出している	
			(外部評価) 利用者が使い慣れた家具やテレビ、好みの小物を持ち込み、過ごしやすいうように設置している。掃除も行き届いて清潔感があり、広い収納スペースのため部屋全体がすっきりした落ち着いた雰囲気となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 自室の場所を忘れてしまう人にとって表札の位置が高すぎたり、安全に配慮するとでっぱりがなくなり見えづらい形になったりと小さい点で難しいことが多いが、相対的には安全への配慮は十分できている	